

第十三回 よのめち俳句まつり

入選作品一覧

(選者) 鷹羽狩行 (公益社団法人俳人協会名誉会長)

(兼題) 春季雑詠

(掲出期間) 平成三十一年三月十六日(土) ～ 四月十四日(日)

千光寺公園

主催／一般社団法人尾道観光協会 共催／尾道商工会議所

【一般の部】（投句数一八二句）

おのみち俳句大賞

島ひとつ隠して桜吹雪かな

岐阜県大垣市

七種 年男

金賞

灯されて影の寄り添ふ古雛

愛媛県東温市

森 要子

銀賞

追ひかけておひかけられて花吹雪

山口県防府市

尾辻 のぶほ

尾道の花人となる途中下車

兵庫県神戸市

岸下 庄二

銅賞

渡し船降りていよいよ花の山

広島県尾道市

宮永 直美

ひと駅を歩いて帰る花月夜

東京都国立市

新保 徳泰

行く先は尾道水道花筏

広島県尾道市

後藤 弘子

尾道市長賞

あした着る姉とそろひの花衣

三重県亀山市

藤原 紅

尾道商工会議所会頭賞

鐘撞けば鐘に応へて花吹雪

鳥取県米子市

岩水 節子

尾道観光協会会長賞

広き空青き海原初桜

広島県福山市

藤田 かよ子

入 選 【一般の部・名前順】

【あゝお】

ちちははのふるきとに来てつくし摘む

岡山県 安藤 加代

渡し舟乗りてこれより花見人

神奈川県 池田 忠山

揚雲雀乗合バスに間のありて

広島県 石田 楓軒

灯台の点る小島の夕桜

広島県 石田 博子

川の面に帯となるまで花の塵

広島県 石津 裕美

灯ともりて影やはらかき初桜

東京都 石橋 万寿

花吹雪採への誘ひ断れず

広島県 石原 研

しばらくは脱ぐをためらふ花ごろも

東京都 伊藤 妙

さざ波につまづきながら花筏

滋賀県 岩田 宣清

灌仏や指さきに生むひと雫

埼玉県 内野 義悠

咲き満ちて闇やはらかき桜かな

埼玉県 梅田 ひろし

園児らの声登り来る花の山

大分県 衛藤 日出子

お隣と分けあふお重花筵

神奈川県 荏原 やえ子

冠を正して雛納めけり

岩手県 及川 永心

花びらの一片を載せ桜鯛

愛媛県 大賀 康男

川風に押され向き変へ花筏

広島県 大住元 法子

長旅を終へて日本の桜かな

東京都 大西 まりゑ

麗かや夫婦揃つて左利き

福岡県 大野 兼司

石段で交す挨拶朝桜

神奈川県 岡 まゆみ

一人には過ぎたる桜吹雪かな

岡山県 岡田 邦男

尾道の坂知り尽し恋の猫

広島県 尾熊 靖子

島の灯のほつほつと夕桜

神奈川県 押切 安代

【かゝこ】

語り部の撫でてはさすり老桜

山口県 金澤 萬里

花の山天蓋にして千光寺

山口県 金光 清美

野仏の見て見ぬふりや猫の恋

広島県 加納 千女

まだ硬き水音なれど山桜

和歌山県 北野 恵美子

虎杖を折れば思はぬこゑ放つ

東京都 草野 准子

猫を見て猫に見られて花の路地

広島県 久保 紘子

桜薬降るその先は仁王門

広島県 黒瀬 真由子

花の山いたたく町の船着場

広島県 郷坪 敏幸

ファイナーレは豪快にして花吹雪

広島県 廣本 貢一

沈丁の息づき闇の息づかひ

東京都 国保 泰子

交じりたる異国の船と花筏

広島県 後藤 久

改札を抜けて潮の香春かもめ

広島県 小畑 宣之

花の雲押し広げゆくロープウェイ

京都府 近藤 好廣

平成を惜しむがごとく花吹雪

群馬県 桐野 梅子

【さゝそ】

香煙を掬ふ手あまた花の寺

広島県 榊原 越子

長閑さや木洩れ日揺るる千光寺

埼玉県 笹野 青陽

こんなにも散りて山茶花なほ盛り

広島県 佐藤 三重子

ふり返り又ふり返り花の山

広島県 重松 早由未

ふぶく頃ふたたび訪はむ花の山

広島県 杉原 美穂子

うらかなや兄も乗りたき乳母車

和歌山県 鈴木 憲一

【たくと】

立ち止まりまた立ち止まり花の坂

広島県 峠 則数

花の上に花を重ねて千光寺

広島県 高卯 石男

螢飛ぶ闇に起伏のありにけり

静岡県 高杉 光昭

月光を浴びてふつくら花の山

埼玉県 高橋 裕子

遺されし庭に桜の他は見ず

広島県 高山 瑞恵

花の一片滑り込む旅靴

福岡県 高山 桂月

夜桜や黒装束の篝守

埼玉県 田口 紅子

花筏押しくらまんじゅう堰の前

埼玉県 武井 猛

気まぐれの風は往なして糸桜

和歌山県 武友 朋子

遠回りして夜桜の中をゆく

東京都 竹中 義信

夜桜やはるか眼下に漁船

岡山県 竹本 孝

はぐれきて桜吹雪の中ををり

神奈川県 橘 禮子

尊徳像残る校庭花吹雪

山口県 田中 節子

志賀直哉旧居の庭の桜かな

広島県 谷口 一好

糸ざくら老木にして揺れ止まず

広島県 田村 祐巳子

海からの風あそばせて花の山

埼玉県 近澤 幸恵子

魁の一片のあと花吹雪

神奈川県 塚本 治彦

一礼の隙なき背や弓始

神奈川県 辻 俊子

そよ風に応へて花の笑みしとも

広島県 土屋 康治

急流を組みては崩れ花筏

広島県 歳谷 美智子

対岸の島へとどけと花吹雪

東京都 友田 しげを

【なくの】

塩むすび頬張る頬に花吹雪

広島県 名賀 孝恵

花の山妻の歩幅で歩みけり

広島県 名賀 昇

鐘一打押しわたりゆく花の上

神奈川県 永島 文江

予定などお構ひなしに散る桜

大阪府 永田 トシ子

ねぎらへば軽く会釈の遍路かな

徳島県 長山 敦彦

花吹雪ロープウェイを追ひゆけり

岡山県 中山 幸子

花むしろ大の字に寝る昼下り

東京都 野上 卓

【はくほ】

手を通すことなく逝きて花衣

東京都 長谷川 瞳

やはらかき子の手を握り桜狩

広島県 秦 佳奈

紙ふうせんふくらむまでの息深く

富山県 畠山 美苗

潮騒の届く駅舎ののどけしや

広島県 浜田 池鶴子

海見ゆるところへ母の花筵

岡山県

原田 慶子

枝ひろげ新入生を待つ桜

徳島県

坂東 典子

尾道の四方八方花の山

広島県

平井 清香

島々をつなぐ大橋春霞

広島県

平崎 尚子

桜咲くサイクリングの始発駅

広島県

広瀬 光子

八重ざくら枝軽からず影もまた

広島県

福場 朋子

曳船の荷の小島ほど瀬戸の春

広島県

藤井 博子

駆けてくる手にいつぱいのつくしんぼ

広島県

藤本 仁子

黄濁の空や長城春深し

兵庫県

北條 幸夫

寺々の鐘にこたへて花吹雪

広島県

星加 鷹彦

植ゑし父と同年なる桜かな

静岡県

堀 和久

嫺やかに風に応へて雪柳

山口県

堀口 孝子

ともに見し人をしのびて花の下

広島県

堀野 はる

【まくも】

一日の名残りをたたむ花筵

山口県

正木 紀子

茶室へとつづく飛び石花ふぶき

広島県

松井 多嘉子

紅鱗を花と散らして桜鯛

広島県

松浦 ヒトミ

校舎消え往時を語る老桜

広島県

松本 壽賀子

さくら散り桜葉散り村しづか

広島県

三島 敏恵

花ふぶき舞ひ込む午後の大師堂

神奈川県

宮崎 清美

振袖をひろげたるかに大桜

広島県

宮地 タマコ

小躍りをして堰を越す花筏

広島県

村越 正和

存分に潮の香り朝桜

愛媛県

村重 香霞

何もかも手の届きたる春炬燵

京都府

室 達朗

青空へ湧きたつやうに花の山

広島県

盛谷 慧子

【やくよ】

人恋し落花のしげき木に凭れば

大阪府

矢吹 あさゑ

水道にかつて家船さくら散る

岡山県

山口 章宏

花篝火の粉は昇り星になる

広島県

山口 俊枝

ふるさとに血縁ひとり牛蛙

広島県

山本 定子

一片の落花いとしむ桜守

広島県

山本 豊心

花の昼尾道水道真つ平ら

山口県

山本 礼以子

頂にまだ日のありて花の山

東京都

吉岡 昭子

やはらかき風に包まれ花の山

神奈川県

吉田 百代

【わ】

身ほとりに海ある暮し桜満つ

東京都

若林 正人

人声の途絶えひとりの夕桜

広島県

若本 繁子

潮騒の駅下りてすぐ花の坂

広島県

若本 鴻遊

【小中学校の部】（投句数一六二六句）

特選

シャボン玉たくさんふいたら太ったよ
尾道市立山波小学校 二年 端崎 風紗

菜の花の黄色の海で虫泳ぐ
尾道市立土堂小学校 四年 西原 究

風船が夢を包んで飛んでゆく
尾道市立向東小学校 五年 小田原 功汰

入選

たんぽぽはふまれてなかなかいつよい花
尾道市立長江小学校 一年 中尾 早希

いつてきますドアをあけたら春の風
尾道市立山波小学校 二年 松本 航青

教室にふわりわた毛もべんきようだ
尾道市立山波小学校 二年 坂本 心結

春ですよつくしがみんなでよういどん
尾道市立御調中央小学校 三年 植田 妃美

春が来る絵本の色はやわらかく
名古屋市立滝川小学校 五年 水野 結雅

花びらをふわりとほどく春の風
尾道市立吉和小学校 五年 森 菜花

つばめの子はばたけ飛びたて大空へ
尾道市立土堂小学校 五年 中村 奏太

たんぽぽは地球の小さな太陽だ
尾道市立御調中央小学校 五年 清原 仁湖

たんぽぽが待てよ待てよとわた支度
尾道市立吉和小学校 六年 新川 美菜

思い出すともに歩いたさくらみち
尾道市立土堂小学校 六年 数田 小太郎

桜の木別れと出会い見届ける
尾道市立御調中央小学校 六年 窪田 優芽

山笑うふもとで子どもが笑ってる
福山市立鳳中学校 一年 松島 彩花

花びらが春を伝えに港にも
福山市立広瀬中学校 三年 村上 美琴

学校賞

尾道市立土堂小学校
尾道市立御調中央小学校